

第7回委員会委員会会議結果概要（案）

	会議結果要旨
第 7 回 委 員 会 議	<p>○市川市塩浜護岸改修事業計画及び実施計画関連</p> <p><村木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査項目の景観については、主観的な見方だけではなく、例えば1年のうちの何回か、特定の日程を決めて、どれだけのごみの堆積量があるとか、できるだけ数値でとれるものをとらないと、景観系のもは無視される恐れがあるので、この点の手法を考える必要があるのではないかと。 <p>○粗朶の活用関連</p> <p><田草川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三番瀬の再生で何を狙いとして粗朶を取り入れるのか、また、具体的にどのような生物を期待していくのかを教えてください。（事務局：主要目的は護岸のクッション材として考えられるが、どのような生き物を呼び込むかなどは、今後議論していく必要がある。 ・三番瀬の再生は干潟の再生が基本と思っている。粗朶により砂がつきやすくなるのはよいことだが、粗朶の議論だけが先行しているように思えるので、干潟のように砂をちゃんとつけていくというような議論が必要である。 <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗朶の目的を補足すると、やわらかい地盤と石の護岸が粗朶によりフィットすること、護岸の石が崩れるのを防止すること、砂が流れるのを押さえること、砂がつくことにより生物がすみやすくなることの4つがある。それから、もう一つ、松杭により粗朶の強度を上げることを提案させていただきたい。 ・小規模で良いから、ある程度議論して、みんなで話し合ったものを実験的にやっても良い。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗朶を基礎工として使う場合と、根固め工として使う場合と議論を分けて考えるべきではないか。 ・粗朶を護岸の基礎工として使うと、護岸の下に潜ってしまい見た目は、粗朶はわからないが、根固め工のような形で使えば、地元の団体なりがアダプト制度のようなもので管理の仕組みをつくることも考えられるので、勉強会からスタートすることは賛成である。

	会議結果要旨
第7回会議	<p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗朶は有機物であり、耐久性は腐食させる生物がいるか否かに左右される。浅い水深では、腐食させる生物が存在することから耐久性については確認する必要がある。従って、今回議論している耐久性（護岸付近の水深で）と生物を増やそうとすることは二律背反すると思われるので、どの水深なら何年持つかなどを調べる必要がある。 <p><澤田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・係船杭を立てると、2年位でスポンジ状になってしまう。粗朶も木材なので、木材を食するテッポウムシなどがいる三番瀬では、耐久性に疑問がある。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅い水深での粗朶の耐久性に問題があれば、干出ししないで泥底に沈めておくような考え方もある。また、メンテナンスについて、例えば、ある程度技術のある市民が手伝うなどのネットワークをつくることも考えられる。 ・粗朶沈床など自然材料でどのくらい沈下があるかなど情報収集をしていただきたい。 ・粗朶沈床だけではなく、柳止工や有明海のカラミ工法などの自然材料を使う方法も、実際に三番瀬でやってみて効果を検証することもできるのではないか。その場合、材料は周辺の街路樹のせん定材等を使えば、三番瀬周辺の循環型社会みたいなテストもできるのではないか。 <p><矢内委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川工学では、粗朶沈床の1次的な目的は砂を溜め護岸の崩壊を防ぐことであり、補助的に使われる工法である。 <p><佐野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論を深めるため、できるだけ早い時期に、実際に粗朶沈床を施工している若月建設の若月さんをお呼びして勉強会をやるべきではないか。 <p><川口委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石の下の防砂シートより下についてはどのようになるのか。（事務局：現状のままである。防砂シートは、現在の2～3mの幅である捨石の先の軟弱地盤の不等沈下防止のために施行する。）

	会議結果要旨
第7回会議	<p><富田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗朶を使うのもかまわないが、相当練った話の中で、また、じっくりじっくりという話がでていますが、我々地元は急いでいる。粗朶よりも、(フトン)籠で施工する方が、はるかに早く、安く、自然にもやさしいのでないか。 <p>○三番瀬の魚貝類に関する勉強会の開催結果関連</p> <p><大野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の情報は、正確なものとされたい。(人工干潟と自然干潟の区域に誤り) <p><佐野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に、猫実川前面の停滞水域は、アオサの発生源になっていると断定しているが、もう少し情報を調べる必要があるのではないか。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の深浅図をみると、塩浜2丁目、3丁目、日の出、入船あたりは堆積傾向にある。また、沼田知事当時の環境会議ないし環境影響調査検討委員会でも干潟と航路の状況の経過があり、今後のモニタリングや工事との絡みもあるので、このような勉強会をもう1回し直す必要がある。 <p>○設計手法による断面の変更関連</p> <p><佐野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸天端高が圧密沈下を考慮して5.65mと高くすることのだが、前に近郊行徳緑地特別保全地区において、地盤沈下を見込んで土を盛ったら沈下せず陸となってしまった。護岸設計の圧密計算は信頼できるのか。(事務局：ボーリング調査により軟弱層の特性を把握し、沈下予測を立てている。) <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボーリングデータやボーリング孔を使って地下水位を測るとか、その写真や地図だとかを公開していただきたい。(事務局：次回には整理して再度説明したい。) ・的確な順応的管理ができるように、スケジュール表をつくっていただきたい。(事務局：次回までに提案したい。)

	会議結果要旨
第7回会議	<p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 護岸の液状化と関連して、都市防災の専門家を呼んで、勉強会をやってもらいたい。 <p><川口委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に工事現場を見学できるのか。(事務局：案を考えて、次回相談したい。) <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国交省は、海岸防護を線的から面的にする変更も考えており、粗朶の勉強と併せこの点の勉強会もやったほうが良い。(事務局：それは難しい。) ・ 難しいのはどこか言っていただければ。できる範囲でよい。(事務局：それでは、機会を設けて説明したい。) <p>○その他関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回委員会は、新年度に入ってから事務局より調整することとなった。 <p>● 傍聴者からの意見</p> <p><牛野氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防砂シートは、谷津干潟での失敗例があり、何か島を作る際に3ミリメートルのメッシュを敷いたが、生物の行き来ができなくなり、結局ハサミで切ることとなった。この失敗例から学んでもらいたい。